
白と黒と人の心の光

澄田 康美

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

白と黒と人の心の光

【Nコード】

N3706P

【作者名】

澄田 康美

【あらすじ】

かの地に集うは、思いの元に集った者たち。彼らの思いは、かの者に届くのであろうか？今愛と友情を越えた絆物語が綴られる！！

（前書き）

よいさあー、随分時間掛かったけどやっところさ完成しましただ。

わしの拡大解釈によって、すっごい自由奔放になっちよりますだ。

無い台詞とか行動とか普通に乱立してるけど、深く気にしたらあなたが死にます。

ではどぞ。

—とある閉鎖空間—

月光？

「フウウウ…！！フウウウ…！！」

先の場所からこの閉鎖空間に姿を現す閃火。

だが、その瞳は既に負の概念で満たされ人らしい輝きが無い。

月光？

[illegible]

再び暴走の咆哮を上げる閃火。

と共に驚異的に震える元素を構成し、

漆黒に染まり上がった神器・宝具を無尽蔵に造り上げる、

それはまるで無限の剣製さながらである（
アンリミテッド・ブレイド・ワークス

そう、此処は『心』…彼の者が負の概念に染まりし哀しき『センジ
ヨウ』―

その地にて、彼に招かれた来客者達が集っていた。

デュオ

「…何かやばくね？」

光軍

「おおーおおーおおー。気になって来てみれば、
なんかえらい事になってんなあ……」

銀

「やれやれ…ここにいたか…ムーンライト。」

イフオード

「ようやく到着しました」

光軍

「あつ！オイコラ、銀！

ハーケンっばい言い方すんのは俺が先だろ！ブーブーブーブー…

・・・

つと、気を取り直して。オーケー“孤高の狼戦士”・・・一体どうした？」

零岬

「けっ…ただの野獣になっちまったか…だらしねえな月光」

委員長

「デュオ！！これは一体！？」

デュオ

「俺が知った話じゃねえよ！？」

ドモン

「俺達も来てみた。」

東方不敗

「どうやらかなり危険なようだな。」

カービィ

「よゝし！！手伝うよ！！」

集った客人の全員が、月光をじっと見据えていた。

その中で一人、空気が違うほど前を向けていない者が一人いた。

リグル

「そんな・・・あれが・・・月光さんなの？」

そっ、彼女は、自身の目の前にいる存在が、

ずっと信じていた彼だと・・・兄だと、信じる事ができなかったのだ。

光軍

「てか俺帰っていい？」

ほら、俺って貧弱じゃん？

この面子の中で、明らかに必要ないだろ」

その言葉に、銀は苦笑し、イフォードは冷静に対処した。

銀

「にしても……どうするよ」

イフォード

「データは嘘をつきません

光軍様もちゃんといってください

とりあえず、皆様に気休め程度のバリアを張らせていただきます」

そう言うと、イフォードの手元で電磁が生まれ、

その場にいる者達を包み込むようにバリアを張った。

イフォード

「あくまで気休めですので」

零岬

「気休めで十分だ

さあて…最悪刺し違えても止めねえとな」

イフォード

「月光閃火様のパワーを測定・・・

我々のパワーの合計を比べます・・・

測定完了・・・結果を聞きますか？」

委員長

「今回も全力で行くが前みたいに空気を読まないトドメをしないようにしよう・・・」

右手にビームライフル、左手にシールドを装備しながら言う。

イフォード

「委員長様、今回はそんな甘い考えを捨ててください

月光閃火様のパワーと我々の総計のパワーを足した数値を比べる

と・・・

その・・・申し訳ににくいのですが・・・」

委員長

「...察した。全力で行かせてもらおう。」

零岬

「あの野獣の方が上ってか？」

イフォード

「・・・はい

正確に申し上げるのなら、80%ほど、我々が下回っております・

・・・」

デユオ

「死神は止められないぜ!!」

「……………!!!!」

人ならざる咆哮を上げながら、しかしあまりにも切なく哀しげなオラを暴発する)

イフオード

「来ます!! 皆さん構えてください!!」

全力で、全員を守るバリアを張る。

光軍

「えっ、構え!?! こ、こうか!!」

光軍は右足を膝で曲げながら少し上げ、両手を手首で、

曲げながら手首が一番上に来るように上げるポーズをとった

斑鳩

「そんなもん…跳ね返してやらあ!」

斑鳩は能力、「ありとあらゆる物を反射する程度の能力」を発動させ、

月光?の攻撃を相殺させていた。

もちろん、月光?の攻撃はこの程度で済むわけが無い。

月光?

「【約束されし(エクス・)】…!!」

その言葉と共に漆黒の【約束されし勝利の剣】を上に翳す。

そして・・・

月光？

「勝利の剣」
カリバー
ア
ア
ア
ア
ア
ア
ア
ア
ア
!!!!!!

その叫びと同時に振り下ろし、巨大な漆黒の斬撃波を放つ。

委員長

「んなアアアアアアアアアア！！？」

デュオ

「ヤバすぎだろ！！？勝てねーだろ！！？」

ドモン

「くっ！！イフォード、礼を言う！！」

東方不敗

「何て敵だ!？」

カービィ

「こんなの」に勝てるの!？」

リ
グ
ル

「うぐっ！」

イフォードの張られたバリアと、自身の精神力で、彼女は攻撃をどうにか防いでいた。

イフオード

「や、やはり・・・パワーが桁違いです・・・」

己の全てを賭して、皆を守る。　しかしバリアはどんどん限界に近づいていく。

零岬

「あらー・・・ヤバいなあ、あれは・・・
そんじゃ俺も・・・んああ」

零岬は口から黒兎を出し、衝撃波を受け止めた

斑鳩

「ちいつ！！テメエ等！！私の後ろにつけ！！」

能力による反射するバリアを全体に張る。

ほぼ全員が、寄り添うように斑鳩の後ろに退避していった。

銀

「ちつ…頑張れ、今、暗黒淵を呼ぶ！！」

イフオード

「すみません・・・皆様・・・力不足で・・・」

己の張ったバリアは既に崩壊し、斑鳩の後ろで力なく膝を折っていた。

デュオ

「おっおい！！イフォード！？」

デュオがイフォードを支える。

イフォード

「すみません・・・デュオ様・・・しかし・・・私めでは・・・もう・・・」

光軍

「気にするなよく頑張ったよ

俺も出来るだけ頑張ったが・・・結局無理だった」

そう言つて、斑鳩の後ろに行ったイフォードの肩に手を置いた

いや、この人何かしてましたっけ？

デュオ

「おいおい・・・お前は十分俺達を守ってくれたよ・・・」

そう言いながらジャイアントハリセンを黄金のゴールデンハリセンに持ち替え、

デュオ

「今度は、俺達がお前を守ってやる番だ！！」

暗黒淵

「ほう・・・面白そうな事をしているな」

暗黒淵はスキマから一部始終を覗いていた。

月光？

「フウウゝウゝ．．．！！フウウゝウゝ．．．！！！」

荒い息を更に荒くする。そして．．．

月光？

「マカツラアラワセシアンコクノツルギ
【凶現闇剣】」

その言葉と同時に一振りの巨剣バスタードを手に取る。

それは正に【凶】マカツを現すにふさわしい、

禍々しいオーラを纏った深紫の巨剣バスタードである。

「ヌゝウゝウゝウゝウゝウゝウゝン！！！！！」

飛んでくる攻撃を、

「マカツラアラワセシアンコクノツルギ
【凶現闇剣】で斬り、叩き伏せる。」

イフオード

「だ．．．駄目です．．．

やはり．．．我々の力では．．．あの姿になった月光様を止める
事など．．．」

デュオ

「簡単に諦めんじゃねえよ！！コイツは、俺達で止める！！」

デュオ

「ゴールデンハリセンスマアアアアアッシュ！！！」

そう言いながらゴールデンハリセンを閃火に思いつき振り下ろした。

光軍

「いや、全くどうしたものか……」

真剣な眼差しで、光軍は戦況を見渡す。

いやだから何かしなさいよ。

零岬

「ほう……やっぱり野獣でもそれなりにやるか……」

月光？

「フンッ！！」

デュオの攻撃を、

【凶現闇剣】の一振りで吹き飛ばす。
マガツヲアラワセシアンコクノツルギ

その直後に、

月光？

「……………ッ！？ガァァァ……………ッ！！」

突然閃火は手に持った【凶現闇剣】を手放し、
マガツヲアラワセシアンコクノツルギ

頭を抱えて苦しみ始める。

イフオード

「！？月光閃火様のパワーが激減しました！！」

デュオ

「ドワァーッ！？」

月光？に吹き飛ばされるデュオ。

ドモン

「デュオ！？」

ドモンがデュオをキャッチする。

東方不敗

「何だ？彼奴の様子がおかしいぞ？」

柊

「これは・・・どう突っ込めと？というか何をすればいいのですか・
・・」

といいながら、とりあえずメガフレアを打ちまくる柊。

何か来てみたらこうなっていたからである。

零岬

「あん・・・なんだ？もがきだしたぞ？」

月光？

「……リグル……ミンナ……ニ……ニゲロ………！！！」

そう苦しみながら言って、この場に居る人全員に撤退を勧める。

リグル

「もしかして………月光さん!!!!!!」

イフォードの傍にいたリグルが、苦しむ月光閃火の所へと駆けて行った。

皆がその様子を、ただ見守っていく。

零岬

「…リグル、ここからはお前の仕事だ…頑張れよ」

海「なぜにして閉鎖空間？古泉さんと呼ぶべきか否か……」

隠れて見てる海。

委員長

「閃火の意識が戻った？」

デュオ

「どうやら一時的みたいだな…」

ドモン

「……そんな状態のお前を放っておけるか!!」

東方不敗

「同じく」

カービィ

「そつだよ!!ほつとけないよ!!」

しかし、今は無闇な事をせず、とにかく見守る。

イフォード

「どういう事ですか・・・先ほどの暴れようが・・・なぜでしょうか・・・」

私めのデータには、解答が見つかりません・・・」

光軍

「逃げていいの?じゃっ!」

そう言つて七時の方角へ逃げ出した。この人本当何しに来たんだ?

零岬

「んじゃ…帰るわヨーグルトも食いたいし」

そついいながら、スキマに飛び込んで行つた

委員長

「俺達も見届けよう…これからは彼女の戦いだ」

デュオ

「だな」

圭「何があつてんだ・・・?というか柊前出すぎだ・・・」

海の近くにいる圭。

月光?の声は届いてない。

デュオ

「光軍……テメエも見届けてやれ……」

と言ってゴールデンハリセンを構える。

リ
グ
ル

「月光さん！！月光さん！！！！！！」

彼の傍に駆け寄り、必死に彼の名を呼び続ける。

月光？

「ダ……ダメダ……！！ニゲロ……リグル……！！！」

そう言ったその時、

閃火の身体から放たれる禍々しいオーラが限界まで膨れ上がる。

そして…

[illegible]

その咆哮と同時に禍々しいオーラが閃火の身体から噴き出し、

その噴き出されたオーラから、

『無双OROCHIシリーズ』に登場する『遠呂智』の容姿をした者が現れる

???

『フン…ナカナカ良イ器ダッタナ…』

その者はそういつて、気を失い倒れている閃火を見やる。

梨奈

「ありや暴走してんな…というか柊、戻ってこい…」

一緒にきた梨奈。

やはり隠れてみている。

銀

「……今殺すか？」

パイルバンカー「ヴェータル」を構え、月光から出現した者をにらみつけた。

リグル

「！！げ……月光……さん？」

倒れている月光を揺さぶる。

その後、月光のオーラから現れた存在をにらみつけた。

リグル

「……あなたが……月光さんを？」

その目には、圧倒的な怒りが込められていた。

委員長

「…いて正解だったな!!」

ドモン

「リグル!! 閃火を連れて離れる!!」

柊「月光さん!?! リグルさん、月光さんを頼みます!」

といい、敵である者に向かう。

ツカサ

「ヒ―口は…。」

アニメ冒険家

「遅れて登場だよな!。」

エイミ、ラルク、クラス、ビース、メリア

「助けにきたよ!!。」

今更ながらに登場。

イフオード

「げ、月光様が持っていた力が…あの者に全て移りました…
それも、先ほど以上の力を身につけて!!」

とりあえず分析データをたたき出すイフオード。

斑鳩

「あれが…本体か…」

斑鳩は数珠をかまえ

斑鳩

「成仏せいやあああああ！！！」

と、数珠を叩きつける

委員長

「はじめましての人もあるが話は後だ！！まずはアイツを……！！！」

と言ってビームライフル、マシンガン、バズーカ砲を一斉に構える。

郡

「あかん、ありやばい。

圭、柊、海、梨奈、大丈夫か？」

一番遠いところで見てる郡。

???

『フフフ………ソウダトモ

コノ者（閃火）ノ負ハ正ニ我ヲ顕現スルノニフサワシカッタノデ
ナ……』

そういつて、『遠呂智』似の者は自身を睨み付けるリグルを見て不
敵な笑みを浮かべる。

???

『何ヨリ、ソノ負ヲ増幅サセタ貴公ニハ感謝セネバナラヌシナ
彼（閃火）ノ失態トハ言エ、

貴公ノ疑イハカナリノ促進トナッタ事ハ確カナノダカラナ……

[illegible]

そういつて、その者は高らかに嘲笑する。

その言葉の真意、それは、今の月光をこうした原因はリグルにある事を告げていたのだ。

リ
グ
ル

「そ．．．そんな．．．わたしが．．．月光さんを．．．私が．．．
．．．追い詰めたの？」

膝を折り、月光の顔をじっと見つめる。

その目には、とめどなく涙が流れ出していた。

リ
グ
ル

「……ごめんなさい……ごめんなさい……ごめんなさい……」

私のせいで……私の……せい……で……」

悲しみにくれて、ただ彼に謝罪する。

全ては手遅れだった。

銀

「……厄介だな、だがな……」

暗黒淵

「私には勝てないさ」

と、暗黒淵が空から現れる

柊

「誰だよ！？あの質量兵器人間は！？」

といいながらシールドを張り直す。

????

『フンッ！！』

そういつて、自身に向かってくる攻撃を全て左手の一払いで掻き消す。

海

「とりあえず援護した方が良いよな・・・」

といいながらRUライフルを構える。

その時、一匹の殺人生物がステルスを纏いながら、謎の者に近づいていく。

郡

「ありや援軍が必要だ。」

といい、とある三人に連絡をとる。

斑鳩

「うおお！？」

斑鳩は風圧で吹き飛ばされるが、即座に態勢を立て直した。

斑鳩

「ちつ、ダメージはねえが、攻撃が当たらないのはムカつく!!」

委員長

「一斉射撃…行つくぜエエエエエエエエエ!!」

全ての重火器を撃ちながら急接近する。

弾がきれると武器を棄て、ビームサーベル二刀流に持ち替える。

委員長

「こんのオオオオオオオオオ!!」

ビームサーベルを突き刺そうとする。

デュオ

「ゴールデンハリセンスイングウウウウウ!!」

と言ってゴールデンハリセンを振り回しながら接近する。

ドモン

「必殺!!ゴッドスラッシュ!!タイフーン!!」

と言って腰にマウントしてあったビームサーベルを二刀流にし、回転しながら突っ込む。

東方不敗

「未熟千万!!ハア!!」

と言って、連結したタオルを叩きつける。

カービィ

「スマツシュキツク!!」

と言って猛烈なキツクをかます。

イフオード

「皆様・・・駄目です・・・あの者の力は・・・計り知れません・・・」

我々では・・・勝つ事は・・・

ツカサ

「諦めていいのか？だめだせ!」

和

「空、行けるか？」

空

「じゃあ、いくよ・・・」

ライフルやらランチャーやらを、いろいろゲートオブバビロンからだし、構える。

デュオ

「だから弱音を吐くなって言ってるんだろ!？」

委員長

「こんな言葉がある...『人の心は、どんな苦難も乗り越えられる』
見せてやらねーか?『人の心の光』って奴を...」

殺人生物は、謎の者に肩のブラスターを放った。

ただ、殺すと言う本能に従って…

???

『フツ…全ク以テ、人トイウ者ハ脆キモノヨ。』

そういつて、立ち向かう者全てを見やり嘲笑う。

???

『ドンナニ時ガ経トウト、人ハ人ヲ怒リ、憎ミ、蔑ミ…そして悲シム
ソノ負ノ概念ガ…我トイウ存在ヲ生ム』

そういつて、立ち向かう者を見下す。

???

『ソウ…我が名ハ『過^{マイナス}負荷』！

汝ラガ生ミ出シ負ノ概念ノ顕現体ナリ！！』

その名乗りと同時に、『過^{マイナス}負荷』から負の気迫が放たれ、

全ての攻撃を弾き飛ばし、自身以外のその場に居る者全員を吹き飛ばす。

リグル

「！！！！！！」

マイナスの放った気迫に、リグルはいとも容易く空へと投げ出された。

そう、受身を取る事もできずに、ただ落下していった。

その過程で、彼女はふと思ったのだ。これで・・・あの人に償える・・・と。

彼女はその瞬間に、生きる事を放置しようとした。

そう、丁度彼女は思ったのだ、月光と手合わせをした時の、あの事を。

今のように、ただ無防備に落下していく自分は、まるであの時の自分とまったく同じだと。

ただ違うのは、このまま落ちれば恐らく、彼の元にいけると考えた事。

柊

「うわっ！」

攻撃され、よける柊。

海

「バーストストリーム！」

必殺技を撃つ海。

空

「一斉・・・砲火！」

銃火機を一斉に撃つ空。

圭

「どうすりゃいいんだ・・・」

手伝えない圭。

梨奈

「みんな・・・がんばって・・・」

応援する梨奈。

『カフカハッケン…』

すると殺生物はステルスを解いた

殺生物の名はプレデター…過負荷を殺す為に派遣された戦士だ

委員長

「ふざけてんじゃねえよ！！人の心は！！」

東方不敗

「そんなものの為にあるわけではない！！」

カービィ

「人の心は助け合いと言う光を持ってるんだよ！？」

ドモン

「その光と言う名の希望の灯火を！！」

デュオ

「消させはしないぜ！！」

イフオード

「くっ！！そんな・・・パワーのベクトルが逆を向いているなど！！」

斑鳩

「リグル！！」

斑鳩はリグルに近寄ろうとしたが、あまりの攻撃を前に、リグルの救出は無理そうである。

斑鳩

「あの野郎…ぶっ殺してやる！！」

友「どう突っ込めと。」

郡に呼ばれてきた友。

謎「さあな・・・」

状況に呆れる謎。

委員長

「見る！！こんな状態でも俺達は互いに助け合っている！！それを否定するのか、貴様は！！」

暗黒淵

「私でもかね？」

太陽の表面を歩き、惑星に衝突しても平気な最強の魔神、…暗黒淵。

彼女一人だけが、この状況に平然としていた。

銀

「くっ！！お前だけが頼りだ…暗黒淵！！」

暗黒淵

「やれやれ、もはや…消すしかないか。」

暗黒淵は笑いながら近づく。

圧倒的過ぎる威圧感を気にせず、攻撃を受けても歩き続ける。無論、
ノーダメージ。

柊

「何でみんな来てるの？…そうか、助けに来てくれたんだ

そう、私だけじゃない

NNWのみんな、そして、ここにいるみなさん

みんな、気持ちは一つなんだ」

思いが皆一つになったその瞬間に、落ち行くリグルを、誰かが受け止めた。

「へへっ……馬鹿やロウ……死を選ぶんじゃないよ……」

それは、何処からともなく聞こえる、懐かしき声。

月光

「俺ア…リグルには笑顔でいて欲しいからよ」

その言葉と同時に、落下していくリグルを抱き止める青年。

月光

「わりい…遅れたな」

そう…それはリグルに向かって明るく笑顔を見せる閃火の姿である。

過負荷

『バ…バカナ！？貴様ハ今マデ氣ヲ失ッテイタハズダ！！』

何故…何故ニイイイイイイイイイイイイイイイイ！……！！
」

月光

「んなもん決まってるだろ？」

リグル悲しんでる声が奥底に居た俺のココに聞こえてきたんだよ！

「そういつて、自分の胸の真ん中辺りをトントんと拳で軽く叩く」

暗黒淵

「よく生きていたな、月光」

暗黒淵は笑いながら月光に近づく

暗黒淵

「さて…」

さつさと、あの雑魚を消そうか？

リグル

「月光さん……私……私……」

月光の胸の中で、泣き崩れる。

月光

「へへっ……………ただいま、リグル」

そういつて、リグルを優しく抱き締める。

過負荷

『ヌウ…ダガシカシ、我二八貴様ノカヲモ持ツテイルノダゾ?』

月光

「ああ…確かにそうだな。だがな…」

そういつて、閃火は右手を横に翳す。

月光

「アンタのそれは闇の万達者あんごくオール・マスターの力だ。
オール・マスター
見せてやるよ…真の万達者の真髄を!!」

その言葉と同時に、彼の右手に淡い光が集まり出す。

そしてその光は集い、一振りの巨剣バスタードがその姿を現す。

月光

「顕現せよ…【聖現陽光剣】セイギヨアラワセシヒカリノツルギ!!」

そう叫びながら、【聖現陽光剣】セイギヨアラワセシヒカリノツルギを構える。

月光がそれを構えた瞬間に、イフォードは自らの使命を感じ取った。

イフォード

「それでは…人の心の光を信じて…私めも行きましょうか!!」

その場にいる者全員に、自身の力を分け与える。

イフォード

「チャンスは一度です!!皆様、一斉に行ってください!!」

海

「月光さん！」

月光たちに駆け寄る海。

郡

「かつこいい・・・」

真上でリグルさんをキャッチした月光さんにつぶやく郡。

柊

「そろそろ・・・終わりにします？」

必殺技の準備に入る柊。

委員長

「閃火さん、リグル！！俺達も手伝う！！」

デュオ

「お前らだけにいい思いはさせないぜ？」

ドモン

「どうしようが俺達の勝手だ！！」

東方不敗

「この世界がダメになるかならないかだからな！！」

カービィ

「やってみる価値はあるよ！？」

台詞を自重しない委員長面。

祐

「もうすぐ終わりか。」

呼ばれたのに出番のない祐。

暗黒淵

「…重力半径」

と、暗黒淵は必殺技の体制にはいる

暗黒淵

「重力は恐ろしいものだ。ふふふ」

銀

「さつさとやれ、暗黒淵」

暗黒淵

「慌てるな」

柊

「アルテマジック・・・テラフレア！！！」

必殺技をたたき込む柊。

暗黒淵

「シュヴァルツシルト・ラディウス！！」

と、巨大なブラックホールを発生させる

海

「アクアバースト！」

友

「ツインサンダー！」

圭

「ランドセイバー！」

謎

「ダークショット！」

必殺技を撃つ四人。

委員長

「奥の手、全弾発射アアアアアアアアアア！」

そう言ってビームライフル、マシンガン、バズーカ砲を構えて一斉に放つ。

デュオ

「ゴールデンハリセンスマッシュアアアアアアアアアア！」

そう言っつてゴールデンハリセンで思いっきりぶん殴る。

東方不敗

「今こそ！！流派東方不敗が最終奥義！！！」

ドモン

「俺のこの手が真つ赤に燃えるウ！！勝利を掴めと轟き叫ぶウ！！ばああくねつ！！ゴツドオ、フィンガア……」

二人

「石破！！究極！！天驚けえええん！！」

そう言つて二人は巨大な気の拳を撃つ。

カービィ

「ライジンブレイク！！」

そう言つて強烈なパンチを放つ。

イフオード

「プログラミングリプート完了！！
行きます！！ファイナルスパアアアク！！」

データから形成された巨大なビームを放った。

空

「援護します！！斉射撃！！」

ちなみに二回目である。

暗黒淵

「受け入れろ！これが真実だ！！」

と、重力半径によりパワーアップした漆黒の極太レーザーを放つ。

デユオ

「希望が見えてきた！！行くぜエエエエエ！！」

さらに力を増す。

柊

「何だろこの光・・・解析できないけど、もう一発、打てるよ。
全力全開、行け、希望の光、アルテマジック・・・ファイナルフ
レアー！！」

水色の光線が敵に飛んで行く。

暗黒淵

「…ふふ、この光が…人の心か。」

イフォード

「これが・・・人の心の光ですか・・・
恐らくこれは・・・科学がどれほど進んでも・・・解明できない
力ですね・・・

この力があれば・・・行けます！！リグル様！！月光様！！」

暗黒淵

「……………ふふふ……」

暗黒淵はイフォードの言葉を聞いて笑った。

暗黒淵

「昔から人の心は核よりも危険なものだよ。」

過負荷

「グオオオオオオオオ！！！！」

皆の圧倒的な攻撃を前に、耐える一方の過負荷。

さあ、今こそ彼の刃が振り下ろされる時だ。

月光

「みんな…」

その時、みんなの放った力と思いが、

セイギヲアラワセシヒカリノツルギ

【聖現陽光剣】の刀身に集まり燦々と輝く。

過負荷

『ナ…ナンドソノ輝キハ！？』

月光

「見せてやる…これが…みんなの力を受けて放つ、最大最高の技だ！！！！」

その言葉と同時に、

セイギヲアラワセシヒカリノツルギ

【聖現陽光剣】を上を翳す。そして…

月光

セイクリッド・カリバーン

「聖光極限必殺！！」【聖光絆結斬】！！！！！！」

その言葉と同時に、天を貫かんとする聖光の刃の一撃が過負荷を呑み込む。
マイナス

お約束とばかりに彼の身体とおんなじ形の穴ぼこを作って。

リグル

「げ、月光さん!!」

彼が落ちた所に駆けて行く。

イフオード

「……そうですね……」

人の心は……科学や情報や……そういった概念を打ち破る・
・

唯一絶対の力でしようね……」

委員長

「……奇跡だ……」

全身の力が抜け、倒れる。

デュオ

「へへっ……こんな事……ありえねえよな……」

カービィ

「勝ったよ僕達!!」

ドモン

「後で祝勝会だな……」

東方不敗

「ならイクシードがいろいろ作ってるそうだから行かないか？」
雑談7』へ。」

柊

「終わった・・・」

圭

「柊!!!」

柊

「圭!みんな!!」

海

「お疲れ。」

祐

「やったな。」

梨奈

「（心の光・・・あれは一体・・・）」

柊

「そっいえばみんなは何できたの?」

友

「郡に呼ばれたんだよ。」

和

「ああ。」

空

「わたしもいます。先輩方。」

謎

「疲れたな。見てるだけで。」

郡

「だな。」

委員長

「（アムロがいりやもつと良かったな…。」

不謹慎な事を考える。

イクシイ

「シャアがいてこそでしょう？」

（皆さんあちらに行ったら祝賀会がありますよー）」

月光

「アハハ…疲れて動けねえや…。」

そういつて、苦笑いをしながらリグルを見やる。

そりゃあんだけ力を使ったのだ…いくら力に慣れたとは言え、普通に疲れる。

月光

「とりあえず、今日はこの辺で寝させてもらうよ…おやすみ…。」

そういつて、そのまま穴ぼこに填まった格好で熟睡し始める。

イクシイ

イフォードの言葉を聴いたあとに、暗黒淵は地面に崩れるように倒れた

リグル

「……はは……やっぱりこうなるわよね……」

月光閃火の寝顔をじっと見つめる。

その顔はかなり複雑な心境を描いていた。

イフォード

「リグル様、これから暗黒淵様をつれてあちらに行きますけど、あなた様とそのお方はどうしますか？」

そう言つて、暗黒淵をまさかのお姫様だつこで抱えているイフォードがいた。

リグル

「そうね……この人はそつとしておくわ……疲れてるだろうし……」

それじゃ、行きましょう、イフォード」

イフォード

「わかりました

転送ゲートオープン」

そう言つと、先ほど開いたゲートを開けて、二人は彼らの待つ場所へと向かつていった。

そう、皆がわいわいと騒ぐあの場所へ・・・

白と黒と人の心の光 とある奴らの非日常に続く・・・

（後書き）

後書き（ゆるいぞ、滅茶苦茶ゆるいぞ）

澄田

「皆様、大変お疲れ様でした」

パチパチパチパチ

澄田

「いやはや、ほとんどまんま・・・てか文章入れ替えただけってねえ・・・」

リグル

「月光さん・・・」

光軍

「てか月光もいい加減リグルの思いに気づけよなあ」

暗黒淵

「それが月光という人間なんだろう？」

月光

「ZZZZ・・・」↑寝てる。

委員長

「てかみんな自由にやりすぎだよな？」

銀

「イフォードがあんな事するぐらいだからな」

イフォード

「いやぁ・・・まあ・・・暗黒淵様をどうお運びしようか迷ったので・・・」

零岬

「せっかく狩人呼んできたつてのに・・・」

プレデター

「・・・・・・・・・・」↑しゃべる気なし

東方不敗・カービー・デュオ・ドモン

「俺達必要だったのか？」

斑鳩

「いやいや、デュオはまあそこそこ活躍してたんじゃないか？」

圭・海・祐・梨奈・柊・友・和・空・謎・郡

「・・・・・・・・・・」↑活躍してた？

ツカサ、アニメ冒険家、エイミ、ラルク、クラス、ビアス、メリア

「・・・・・・・・・・」↑同じく

過負荷

「とにかく、キャストが少々多すぎる

次はもう少し減らすべきだな」

澄田

「そんなさびしい事言わないでよ」

「そんじゃ、ここから先は今回のNGシーン集!!」

「わしが勝手にやったから、見てぶち切れるなよ!! みんな!!
ではどうぞ!!」

テイク1 最初ら辺の台詞にて

デュオ

「…何かやばくね?」

光軍

「おおーおおーおおー。気になって来てみれば、
なんかえらい事になってんなあ……」

銀

「やれやれ…ここにいたか…ムーンシャドウ。」

デュオ

「いつか、影が光を支配する……って違う!」

澄田

「月影さん、仮面ライダーネタ自重してください」

テイク2 イフォードのバリア

イフォード

「データは嘘をつきません

光軍様もちゃんといってください

とりあえず、皆様に気休め程度のバリアを張らせていただきます」

そう言うと、イフォードの手元で電磁が生まれ、

その場にいる者達を包み込むようにバリアを張った。

イフォード

「プロテスとシエルです
防御効果は抜群ですよ？」

海

「どうせならリフレクもかけて」

銀

「いや自重しろお！！FFネタは案外わからないからあ！！」

テイク3 イフォードの分析結果

イフォード

「委員長様、今回はそんな甘い考えを捨ててください
月光閃火様のパワーと我々の総計のパワーを足した数値を比べる
と・・・

その・・・申し訳にくいのですが・・・」

委員長

「・・・・・・・・エ？」

零岬

「そうだな、あっちにはヨーグルトがあるし」

銀

「ここで暴れてても、あっちには関係ないからな」

イフオード

「では帰りましょうか」

そろそろと全員撤収。

月光？

「・・・・・・・・マッテエエエエエエエエエエ！！！！」

澄田

「いやあ、なかなかのNGシーンでしたねえ」

おっと、そろそろ幕を下ろすべきですねえ

それでは皆様、またこの一同が揃う事を祈っていただきます
んではまたあー!!」

スペシャルサンクス

澄田 康美 様

銀 様

零岬 様

委員長 様

月光閃火 様

イクシードS 様

銃王 海 様

光軍 様

P S、身内にしかわからないけど、これでいいよね？

B Y 澄田 康美

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3706p/>

白と黒と人の心の光

2010年12月14日20時29分発行